

【 復活のトロパリ 第2調 】

しせざるいのちよ、なんぢしにくだりし  
死 生 命 爾 死 降

とき、かみのせいひかりにてぢご  
時 神 性 光 地 獄

くをころせり。しせしものをちかよ  
殺 死 者 地 下

りふくかつせしめしとき、てんぐんみな  
復 活 時 天 軍 皆

よびていえり、いのちをたもうしゅ  
呼 日 生 命 賜 主

ハリストスわがかみよ、こうえいはなんぢに  
吾 神 光 榮 爾

き 帰 す。

【 聖列祖のトロパリ 第2調 】

ハリストス かみよ、なんぢはれつそをしんによりてぎ  
神 爾 列 祖 信 由 義

なるものとなし、かれらをもつてしよ  
者 爲 彼 等 以 諸

みんよりきょうかいをへいていしたまえり。  
民 教 會 聘 定 給

せいなるものはこうえいにてありていわ  
聖 者 光 榮 在 祝

う、けだしそのたねよりしゆくふくせられた  
蓋 其 種 祝 福

るみはいでた り、これたねなくなんぢ  
果 出 是 種 爾

をうみしものな り。かれらのきとう  
生 者 彼 等 祈 禱

によりてわれらをすくいたまえ。  
由 我 等 救 給

【 聖列祖のコンダク 第6調 】

こうえいはちちとことせいしんにきいす、  
光 榮 父 子 聖 神 歸

いまもいつもよよにアミン。  
今 何 時 世 世

みえにふくたるものはてのしるしたるかたち  
三 重 福 者 手 記 像

をうやまわらずして、しるされぬしんせいに  
敬 記 神 性

ようごせられて、ひのげきじょうにえいを  
擁 護 火 劇 場 榮

えたあり。かれらはたえがたきほのお  
獲 彼 等 堪 難 焰

のうちに立ちて、かみをよべり、ああかん  
中 立 神 呼 鳴 呼 寛

ゆ う の しゅ よ 、 い そ げ 、 じ れ ん な る に よ  
 宥 主 急 慈 憐 因  
 り て す み や か に わ れ ら を た す け た ま え 、  
 速 我 等 助 給  
 なん ぢ は ほ っ す る と こ ろ よ く せ ざ る な し 。  
 爾 欲 所 能

司祭) ( 黙誦： 聖なる神、 聖者の中に息い、 セラフィムより 聖三の聲を以て歌頌せられ、  
 ヘルヴィムより 讚榮せられ、 悉くの天軍より伏拜せられ、 萬物を無より有と  
 なし、 人を爾の像と肖とに依りて造り、 爾が諸の賜を以て之を飾り、  
 願う者に智慧と明悟とを與え、 罪を行なう者を棄てずして、 其救の爲に痛悔  
 を立て、 我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、 此の時に於ても、 爾が聖な  
 る祭壇の光榮の前に立ちて、 爾に當然の伏拜讚榮を奉るに堪うる者と  
 なしし主宰よ、 爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、 爾の仁慈を  
 以て我等に臨み、 我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、 我が靈と體と  
 を聖にし、 我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、 聖なる生  
 神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、 )

司祭) 蓋我が神よ、 爾は聖なり、 我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、 今も何時も世世  
 に、

アミン。

【 聖三祝文 】

せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、 せ い な る  
 聖 神 聖 勇 毅 聖



じょうせい のものよ、われらをあわれめ  
 常生 者 我 等 憐

よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい  
 聖 神 聖 勇 毅 聖

なるじょうせい のものよ、われらをあわれ  
 常 生 者 我 等 憐

めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、  
 聖 神 聖 勇 毅

せいなるじょうせい のものよ、われらをあわ  
 聖 常 生 者 我 等 憐

れめよ。こうえいはちちとことせいしん  
 光 榮 父 子 聖 神

にきす、いまもいつもよよに、アミン。  
 歸 今 何 時 世 世

せいなるじょうせい のものよ、われらをあわ  
 聖 常 生 者 我 等 憐

れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう  
 聖 神 聖 勇

き、せいなるじょうせい のものよ、われらを  
 毅 聖 常 生 者 我 等

あわれめよ。  
 憐

司祭) ( 黙誦：主しゅの名なに依よりて來きたる者ものは崇あがめ讃ほめらる、へルヴィムざに座ものする者なんぢよ、爾そは其くに國

こうえい ほうざ あ つね あが ほ いま いつ よよ  
の光 榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、 )

プロキメン  
【 提 綱 諸祖の歌 第4調 】

司祭) 慎みて聴くべし、衆人に平安、



司祭) 睿智、

誦經) プロキメン、主我が先祖の神よ、爾は讃揚せられ、爾の名は世世に讃美讃榮せら  
る、



誦經) 蓋爾は凡そ我等に行いし事に於て義なり、



誦經) 主我が先祖の神よ、爾は讃揚せられ、



【 アポストロス 使徒經 257 端 コロサイ書 3 章 4 節～11 節 】

司祭) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) <sup>せいしと</sup> 聖使徒<sup>じん たつ</sup>パヴェルが<sup>しよ よみ</sup>コロサイ人に達する書の讀、

司祭) <sup>つつし き</sup> 謹みて聽くべし、

誦經) <sup>けいてい なんぢら いのち</sup> 兄弟よ、<sup>あらわ とき なんぢら かれ とも こうえい うち あらわ</sup> 爾等の生命たるハリストスの現れん時、<sup>ゆえ なんぢら ち あ したい ころ すなわちいんこう おかい じゃし あくよく およ たんらん</sup> 爾等も彼と偕に光榮の中に現れん。故に<sup>すなわちはいぐうぞうこれ これら ため かみ いかり さからい このぞ なんぢら さき かれら うち</sup> 爾等の地に在る肢體を殺せ、<sup>お とし これ おこな いま なんぢら いかり いきどおり うらみ そしり なんぢら くち いた</sup> 即淫行、汚穢、邪侈、惡慾、及び貪婪、に居りし時、之を行えり。今は<sup>は ことば いつさいこれ さ たがい いつわり い なか けだしなんぢらふる ひと そのおこない</sup> 爾等も忿怒、恚憾、怨恨、謗讟、爾等の口より出ず<sup>ぬ あらた ひと すなわちかれ つく もの かたち したが ちしき あらた もの き</sup> 愧づべき言、一切之を去れ、互に<sup>ここ じんおよ じん かつれいおよ むかつれい ヴァルヴァロおよ どれいおよ</sup> 謊を言う勿れ、蓋爾等<sup>じしゅ もの すなわち いつさい およ いつさい うち あ</sup> 舊き人と其行とを脱ぎて、新なる人、即彼を造りし者の像に<sup>き</sup> 循いて知識の改めらるる者を衣たり。此には<sup>き</sup> エルリン人及び<sup>き</sup> イウデヤ人、割禮及び<sup>き</sup> 無割禮、夷狄及び<sup>き</sup> スキト、奴隸及び<sup>き</sup> 自主の者なし、<sup>き</sup> 即ハリストスは<sup>き</sup> 一切なり、及び<sup>き</sup> 一切の中に在り。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ。わたしたちのいのちなるキリストが現れる時には、あなたがたも、キリストと共に栄光のうちに現れるであろう。だから、地上の肢體、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪欲、また貪欲を殺してしまいなさい。貪欲は偶像礼拝にほかならない。これらのことのために、神の怒りが下るのである。あなたがたも、以前これらのうちに日を過ごしていた時には、これらのことをして歩いていた。しかし今は、これらいつさいのことを捨て、怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥ずべき言葉を、捨ててしまいなさい。互にうそを言ってはならない。あなたがたは、古き人をその行いと一緒<sup>き</sup> に脱ぎ捨て、造り主のかたちに従って新しくされ、真の知識に至る新しき人を着たのである。そこには、もはやギリシヤ人とユダヤ人、割礼と無割礼、未開の人、スクテヤ人、奴隸、自由人の差別はない。キリストがすべてであり、すべてのもののうちにいますのである。

\*\*\*\*\*

【 諸祖のアリルイヤ 第4調 】

司祭) <sup>なんぢ へいあん</sup> 爾に平安、

誦經) <sup>なんぢ しん</sup> 爾の神にも、

司祭) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) アリルイヤ、



誦經) <sup>しさい うち</sup> 司祭の中に<sup>およ</sup>モイセイ及び<sup>かれ な よ もの うち</sup>アアロンあり、彼の<sup>かれ</sup>名を呼ぶ者の中に<sup>うち</sup>サムイルあり、



誦經) <sup>かれらしゅ よ</sup> 彼等主に呼びしに、<sup>しゅこれ き</sup>主之に聴けり、



司祭) ( 黙誦: <sup>ひと あい</sup> 人を愛する<sup>しゅさい</sup> 主宰よ、<sup>わ</sup> 我が<sup>こころ</sup> 心に<sup>かみ</sup> 神を知る<sup>し</sup> 智慧の<sup>ちえ</sup> 淨<sup>いさぎよ</sup> き光を<sup>ひかり</sup> 輝かし、<sup>かがや</sup> 我が<sup>わ</sup> 思念<sup>しねん</sup>

<sup>め</sup> の目を啓きて、<sup>ひら</sup> 爾<sup>なんぢ</sup> が<sup>ふくいん</sup> 福音の<sup>おしえ</sup> 教を<sup>さと</sup> 悟らしめ<sup>たま</sup> 給え、<sup>わ</sup> 我が<sup>うち</sup> 衷に<sup>なんぢ</sup> 爾<sup>ふく</sup> の<sup>いましめ</sup> 福たる<sup>誠</sup> 誠を

<sup>おそ</sup> 畏るる<sup>おそれ</sup> 畏をも<sup>い</sup> 入れて、<sup>われら</sup> 我等が<sup>ことごと</sup> 悉<sup>にくたい</sup> くの肉體の<sup>よく</sup> 慾を<sup>ふ</sup> 踏み、<sup>およ</sup> 凡<sup>なんぢ</sup> そ<sup>よろこ</sup> 爾<sup>ところ</sup> の喜ぶ<sup>ところ</sup> 所

<sup>おも</sup> を<sup>か</sup> 思い<sup>おこな</sup> 且つ<sup>ぞくしん</sup> 行<sup>せいかつ</sup> いて、<sup>す</sup> 属<sup>いた</sup> 神の<sup>たま</sup> 生活を<sup>けだし</sup> 過ぐるを<sup>かみ</sup> 致させ<sup>かみ</sup> 給え、<sup>かみ</sup> 蓋<sup>かみ</sup> ハリス<sup>かみ</sup> トス<sup>かみ</sup> 神よ、

<sup>なんぢ</sup> 爾<sup>わ</sup> は<sup>たましい</sup> 我が<sup>からだ</sup> 靈と<sup>こうしょう</sup> 體との<sup>われらなんぢ</sup> 光<sup>なんぢ</sup> 照<sup>むげん</sup> なり、<sup>ちち</sup> 我等<sup>しせいしぜん</sup> 爾<sup>しせいしぜん</sup> と<sup>しせいしぜん</sup> 爾<sup>しせいしぜん</sup> の<sup>しせいしぜん</sup> 無<sup>しせいしぜん</sup> 原<sup>しせいしぜん</sup> の<sup>しせいしぜん</sup> 父<sup>しせいしぜん</sup> と<sup>しせいしぜん</sup> 至<sup>しせいしぜん</sup> 聖<sup>しせいしぜん</sup> 至<sup>しせいしぜん</sup> 善<sup>しせいしぜん</sup> に<sup>し</sup> し

<sup>いのち</sup> て<sup>ほどこ</sup> 生命を<sup>なんぢ</sup> 施<sup>しん</sup> す<sup>こうえい</sup> 爾<sup>けん</sup> の<sup>けん</sup> 神<sup>けん</sup> と<sup>けん</sup> に<sup>けん</sup> 光<sup>けん</sup> 榮<sup>けん</sup> を<sup>けん</sup> 獻<sup>けん</sup> ず、<sup>いま</sup> 今<sup>いつ</sup> も<sup>よよ</sup> 何<sup>よよ</sup> 時<sup>よよ</sup> も<sup>よよ</sup> 世<sup>よよ</sup> 世<sup>よよ</sup> に、<sup>よよ</sup> ア<sup>よよ</sup> ミ<sup>よよ</sup> ン。 )

【 <sup>エヴァンゲリオン</sup> 福音經 ルカ福音書 76 端 14 章 16~24 節 】



司祭) 睿智、肅みて立て聖福音經を聴くべし、衆人に平安、



司祭) ルカ傳の聖福音經の讀、



司祭) 謹みて聴くべし、主は左の譬を設けて曰えり、或人大なる晚餐を設けて、多くの者を招きたり。晚餐の時に及び、其僕を遣して、招かれたる者に謂えり、來れ、蓋一切已に備われり。彼等皆同じく辭したり。第一の者曰えり、我田地を買いたり、是て之を見んことを要す、請う、我が辭するを允せ。他の者曰えり我牛五耦を買いたり、是を試みん爲に往く、請う、我が辭するを允せ。又他の者曰えり、我妻を娶りたり、是の故に來る能わず。其僕歸りて、之を主に告げれば、家主怒りて、其僕に謂えり、速に邑の衢と巷とに出でて、貧乏、廢疾、跛者、瞽者を此に引き來れ。僕曰えり、主よ、爾の命ぜし如く行いたれども、尚餘れる座あり。主は僕に謂えり、道路及び藩籬の間に出でて、入らんことを説得して、我が家に盈たしめよ。蓋我爾等に語ぐ、彼招かれたる人は、一も我が晚餐を嘗めざらん。蓋召されたる者は多けれども、選ばれたるものは少し。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) そこでイエスが言われた、「ある人が盛大な晚餐会を催して、大ぜいの人を招いた。晚餐の時刻になったので、招いておいた人たちのもとに僕を送って、『さあ、おいでください。もう準備ができましたから』と言わせた。ところが、みんな一様に断りはじめた。最初の人は、『わたしは土地を買いましたので、行って見なければなりません。どうぞ、おゆるしてください』と言った。ほかの人は、『わたしは五対の牛を買いましたので、それをしらべに行くところです。どうぞ、おゆるしてください』、もうひとりの人は、『わたしは妻をめとりましたので、参ることができません』と言った。僕は帰ってきて、以上の事を主人に報告した。すると家の主人はおこって僕に言った、『いますぐに、町の大通りや小



道へ行って、貧乏人、不具者、盲人、足なえなどを、ここへ連れてきなさい』。僕は言った、『ご主人様、仰せのとおりにいたしました。まだ席がごぞいます』。主人が僕に言った、『道やかきねのあたりに出て行って、この家がいっぱいになるように、人々を無理やりにひっぱってきなさい。あなたがたに置いて置くが、招かれた人で、わたしの晩餐にあずかる者はひとりもないであろう』。

\*\*\*\*\*

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい  
 主 光 榮 爾 歸 光 榮

はなんぢにきす。  
 爾 歸

※ 聖体礼儀③（金ロイオン）へ